

国立大学法人

大阪教育大学

環境報告書

2013



もくじ

○ 学長挨拶	1
○ 大阪教育大学環境報告書2012の作成にあたって	2
○ 大学概要	3
○ 事業概要	5
○ 環境方針	6
○ 環境マネジメント組織	7
○ 環境配慮実施計画	8
○ マテリアルバランス	12
○ 環境負荷データ	13
○ 環境マネジメント活動の推進	
・ 環境保全活動の状況	17
・ 省エネルギー活動	19
・ エネルギー削減の取り組み状況	23
・ 安全・安心への取り組み	25
・ 地域社会への取り組み	26
・ 学内での取り組み	29
○ 配置図(柏原キャンパス)	33

表紙の解説

表紙の写真は、外周道路横駐輪場からA棟に至る歩道の両脇にある「ユリノキ」です。ユリノキやフウノキは落葉広葉樹の代表として校舎の南側に植えられ建物への光・熱調整する役目を果たすとともに秋にはきれいに黄葉します。

ユリノキ(百合の木)は、モクレン科ユリノキ属の落葉高木

学名：Liriodendron tulipifera tulipiferaは「チューリップ(のような花)をつける」の意。

学長挨拶

環境報告書の公表にあたって（平成25年9月）



国立大学法人 大阪教育大学長

亀井 新夫

大阪教育大学は、キャンパスが金剛生駒紀泉国定公園内にあり、全国的にも類を見ない素晴らしい自然環境を有しているキャンパスです。このことは同時に我々がこの環境を維持し、向上させ、未来に引き継ぐ義務をも背負うことを意味しています。その意義と重要性を考えますと、改めて身の引き締まる思いがいたします。

自然と言ってもただあるがままに放置し見守るだけでは自然環境を守ることができません。美しい里山は多くの方の努力と汗の積み重ねが繰り返された賜物であることはよく知られているところです。本学の環境への取組としては、報告書にその詳細を委ねたいと思います。環境への取り組みとして、みんなで花と緑に溢れたキャンパスにしようという整備計画（通称「キャンパス・クリーン・アンド・グリーン」）の一環で年2回のキャンパスクリーンデーの実施や職員によるフウセンカズラ・コスモスなどの播種、そして省エネルギーキャンペーンとして節電に代表されるエネルギー削減など、多角的に企画し実践して参りました。また、地域社会の取り組みとして柏原国際フェスティバルを開催するなど地域との連携にも力を注いでいます。さらに、大学生協と連携した、テイクアウト弁当の容器リサイクルを呼びかける活動なども続けており、大学全体が環境に対して意識の向上を図ることとしてます。

これらの環境に対する取り組みの中には直ちに効果が見えにくいものもありますが、根気強く継続していくことで環境保全の向上を目指したいと思います。

今年の3月にはこの自然豊かな柏原キャンパスをコースとして、柏原市主催の第31回柏原市市民マラソン大会が開催され、多くの参加者で盛況となりました。多くの市民の方々があるいは苦しい思いをしながら、あるいはまた楽しみながら快走される姿を沿道で応援して私が感じたことは、緑豊かな柏原キャンパスを市民のみなさまとともに満喫できることへの感謝と同時に、いつまでもこの環境を維持していくために何が出来るか、という反省の気持ちでした。これからもそれを考え実践するために、人々が集うキャンパスの可能性を追求してまいりたいと思います。



大阪教育大学環境報告書2013の作成にあたって

方針

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」の施行により、平成18年度より大阪教育大学では、環境報告書を作成、公表してまいりました。大阪教育大学は平成16年4月に法人化し、大学の独自性が問われる中、省エネの取り組み、古紙のリサイクル等環境負荷削減に取り組んでまいりましたが、なお一層の取り組みが必要であると考えております。大阪教育大学環境報告書2013は、本学の教職員、学生、本学への入学を希望されている方々、保護者及び近隣住民に対して、平成24年度の大阪教育大学の環境についての現状を報告するものとして作成いたしました。

報告書の対象範囲

大阪教育大学柏原キャンパス

報告書の対象期間

平成24年度（2012年4月～2013年3月）

※但し、一部の内容については、2013年8月までの情報を含む。

参照ガイドライン等

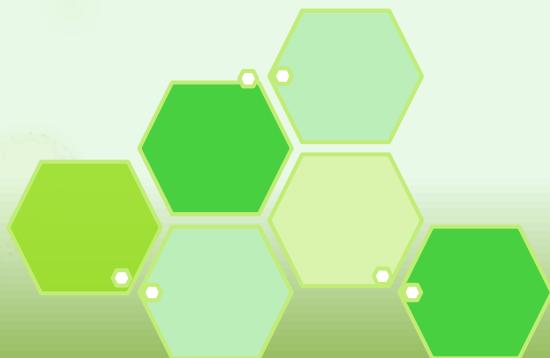
- ・「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく
「環境報告書の記載事項」
- ・環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」
- ・環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」

発行年月

平成25年9月

次回発行予定

平成26年9月

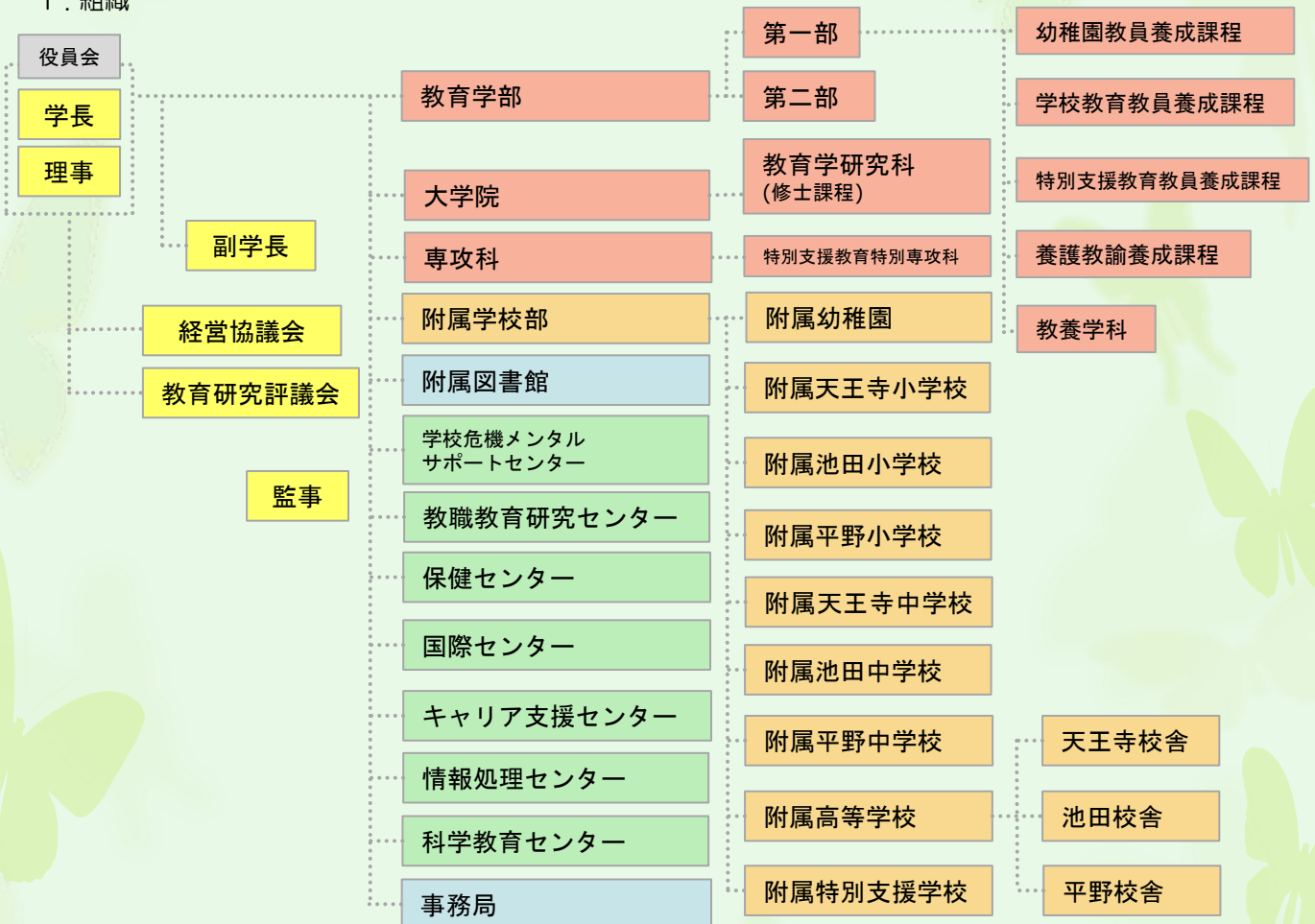


大学概要

大阪教育大学は、1874年（明治7年）8月に設置された教員伝習所にその起源を有する我が国有数の教員養成系大学です。

現在の大阪教育大学は、大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約67万㎡のメインキャンパスを配置し、教員養成教育と教養教育を通じて有為な人材を輩出する一方、国際都市として交通アクセスはもとより情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁し、大阪市天王寺区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した附属学校園とともに総合的な教育系大学をめざしています。

1. 組織



2. 職員数（平成24年5月1日現在）

学 長	理 事	監 事	合 計
1	4	2(1)	7(1)

教授	147
准教授	99
講師	14
助教	0
附属学校教員	260
事務系職員	153

3. 学生数

■教育学部（平成24年5月1日現在）

第一部 教員養成課程・教養学科

教員養成課程	2,062(2)
教養学科	1,769(58)
合 計	3,831(60)

第二部 小学校教員養成5年課程

1年次入学	218
3年次編入学	168
合 計	386

大学院教育学研究科

学校教育専攻他17専攻	423(30)
-------------	---------

特別支援教育特別専攻科

特別支援教育特別専攻科	24
-------------	----

外国人留学生は（ ）
で外数で記入

事業概要

本学は、その主目的である教員養成の他、幅広い教養と豊かな人間性を身につける教養学科を置き、加えて、それぞれを基礎に置く大学院を設置しています。

また、聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象とした特別支援教育特別専攻科を置いています。

1. 教育学部

本学教育学部には第一部〔柏原キャンパス〕・第二部〔天王寺キャンパス・夜間〕の教員養成課程と教養学科があります。

(1) 教員養成課程

① 第一部

卒業と同時に所属する課程・専攻に対応する教育職員一種免許状授与資格を得られるように編成されています。

課程は、学校教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程、幼稚園教員養成課程、養護教諭養成課程があります。

② 第二部

天王寺キャンパスにおいて、昼間に学べない勤労学生等のために門戸を開いており、課程は小学校教員養成5年課程で、卒業と同時に小学校教員一種免許状授与資格を得られるように編成しています。

(2) 教養学科

現代社会の要望に応える幅広い教養を身につけることができる人材を育成することを目的として、8専攻を設けています。人間科学専攻、文化研究専攻、数理科学専攻、自然研究専攻、情報科学専攻、スポーツ専攻、健康生活科学専攻、芸術専攻

2. 大学院教育学研究科（修士課程）

本学の大学院教育学研究科(修士課程)の組織は教員養成課程を基礎に置く大学院と教養学科を基礎に置く大学院に大別でき、その各々に現職教員、社会人等を対象とする夜間大学院を設けています。

また、すべての専攻において、基礎となる一種免許状授与の所要資格を有している場合に限り、専門分野に対応する教育職員専修免許状授与の資格を得ることが可能です。

(1) 教員養成課程を基礎に置く14専攻

- | | | |
|---------|---------------|----------|
| ①学校教育専攻 | ②国語教育専攻 | ③社会科教育専攻 |
| ④数学教育専攻 | ⑤理科教育専攻 | ⑥英語教育専攻 |
| ⑦家政教育専攻 | ⑧音楽教育専攻 | ⑨美術教育専攻 |
| ⑩保健体育専攻 | ⑪特別支援教育専攻 | ⑫技術教育専攻 |
| ⑬養護教育専攻 | ⑭実践学校教育専攻(夜間) | |

(2) 教養学科に基礎を置く4専攻

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-------------|
| ①国際文化専攻 | ②総合基礎科学専攻 | ③芸術文化専攻 | ④健康科学専攻(夜間) |
|---------|-----------|---------|-------------|

3. 特別支援教育特別専攻科

聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象として特別支援教育に関する専門教育を行い、この分野における教育を担当し得る教員の養成を目的に設置しています。

修了年限は1年で、すでに教員免許を有しているものを対象としています。

環境方針

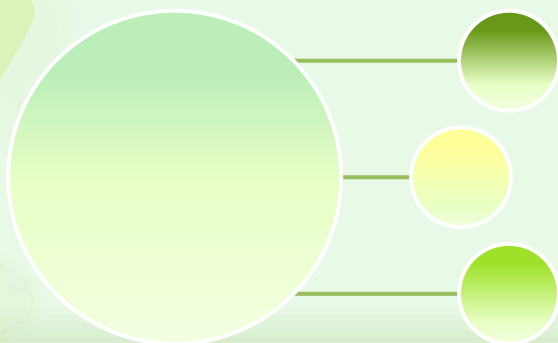
■ 基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めます。
また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。
このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により、環境保全に取り組みます。
5. この方針は、BBS（電子掲示板）をもって全構成員に周知するとともにインターネットのホームページを用いて、広く社会に開示します。

平成25年9月

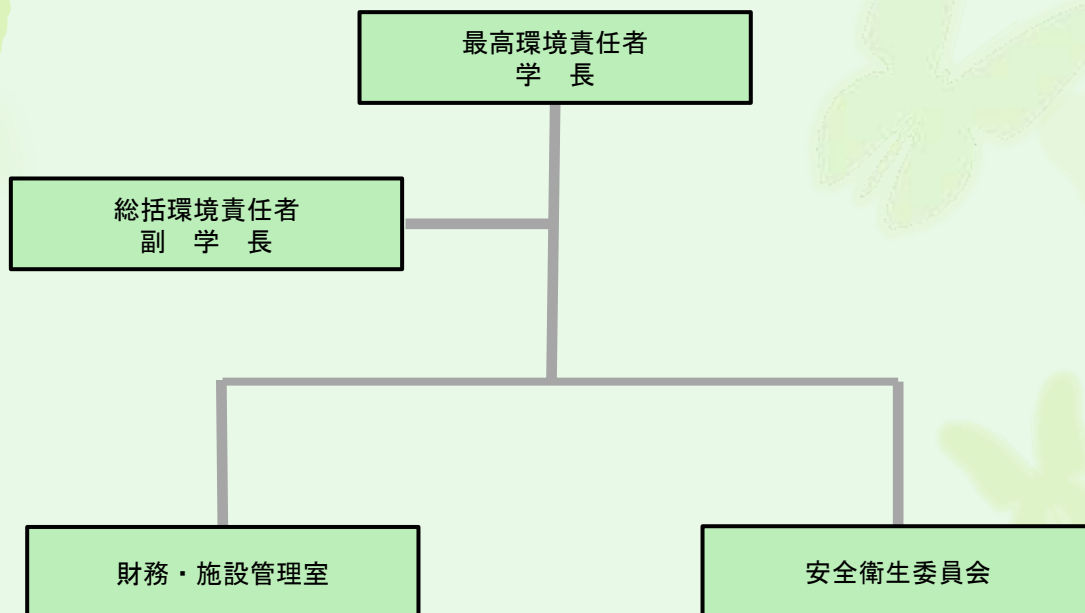
国立大学法人大阪教育大学
学 長 長 尾 彰 夫



環境マネジメント組織

(平成24年5月1日現在)

本学には施設・環境に係わる計画、整備及び維持保全について、担当理事（副学長）を室長に教員、事務職員で構成する財務・施設管理室が審議検討を行っています。また、教職員の危険並びに健康障害の防止等安全衛生については、担当理事（総務企画担当）を委員長に審議検討を行っています。



委員会等構成

財務・施設管理室	
担当理事（室長）	
管理部 長	
学長指名職員	理事 1 名
	教授 1 名
	財務課長
	契約室長
	施設課長
	人事課長

安全衛生委員会（規程・第23条）	
担当理事（委員長）	
産 業 医	
衛生管理者（学長指名）	
危害防止担当者（学長指名）	
安全衛生経験者（学長指名）	
健康障害防止・メンタル対策（学長指名）	
学長指名委員 2 名	

環境配慮実施計画

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「喫煙対策」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めて行きます。

平成24年度の実施計画、評価 (自己評価の○は計画達成、△は一部達成、×は未達成を示します。)

■ 省エネルギー・省資源の推進

項 目	実 施 計 画	自己評価
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のHf型照明器具への更新する。	○
水使用量の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。 <input type="checkbox"/> メーターを検針し、水使用量を把握して大きな漏水がないかチェックする。	○

■ 廃棄物の抑制

項 目	実 施 計 画	自己評価
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化する。 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等紙パックの回収する。 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開する。	○
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の保存等を紙から電子記録媒体に移行する。	○

■ 環境汚染防止

項 目	実 施 計 画	自己評価
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。	○
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。	○
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。	○

環境配慮実施計画

■ 環境教育等の充実

項 目	実 施 計 画	自己評価
環境教育の充実	<input type="checkbox"/> 教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。	○
環境保全意識の啓発	<input type="checkbox"/> 春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。	○

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画	自己評価
森林体験学習	<input type="checkbox"/> 柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。	○
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年流協会)	<input type="checkbox"/> キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。	○
その他	<input type="checkbox"/> 星空を観察するという身近な方法で大気の流れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施する。	○

■ 喫煙対策

項 目	実 施 計 画	自己評価
喫煙・分煙区域の指定	<input type="checkbox"/> 分煙対策として、引き続き禁煙区域の明示と喫煙場所の整理を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。	○
啓発活動	<input type="checkbox"/> 喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。	○

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画	自己評価
雑草の刈り取りとゴミの 一斉収集	<input type="checkbox"/> キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。	○
花壇の整備	<input type="checkbox"/> 計画的に整備する。	○
植栽の剪定	<input type="checkbox"/> 定期的に植木剪定業者を雇い剪定する。	○

環境配慮実施計画

平成25年度の目標

■ 省エネルギー・省資源の推進

項 目	実 施 計 画
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 太陽光発電設備の設置等自然エネルギーの導入を推進する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のHf等照明器具等への更新、省エネに配慮した機器、システムの導入を推進する。
水使用量の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。

■ 廃棄物の抑制

項 目	実 施 計 画
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化する。 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等リサイクルする。 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開する。
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。

■ 環境汚染防止

項 目	実 施 計 画
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。

■ 環境教育等の充実

項 目	実 施 計 画
環境教育の充実	<input type="checkbox"/> 教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。 <input type="checkbox"/> 学内環境を通して、自然環境の大切さを学ばせる。
環境保全意識の啓発	<input type="checkbox"/> 春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。

環境配慮実施計画

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画
森林体験学習	□ 柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年交友協会)	□ キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを回る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。
その他	□ 星空を観察するという身近な方法で大気の汚れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施 □ 幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。

■ 禁煙対策

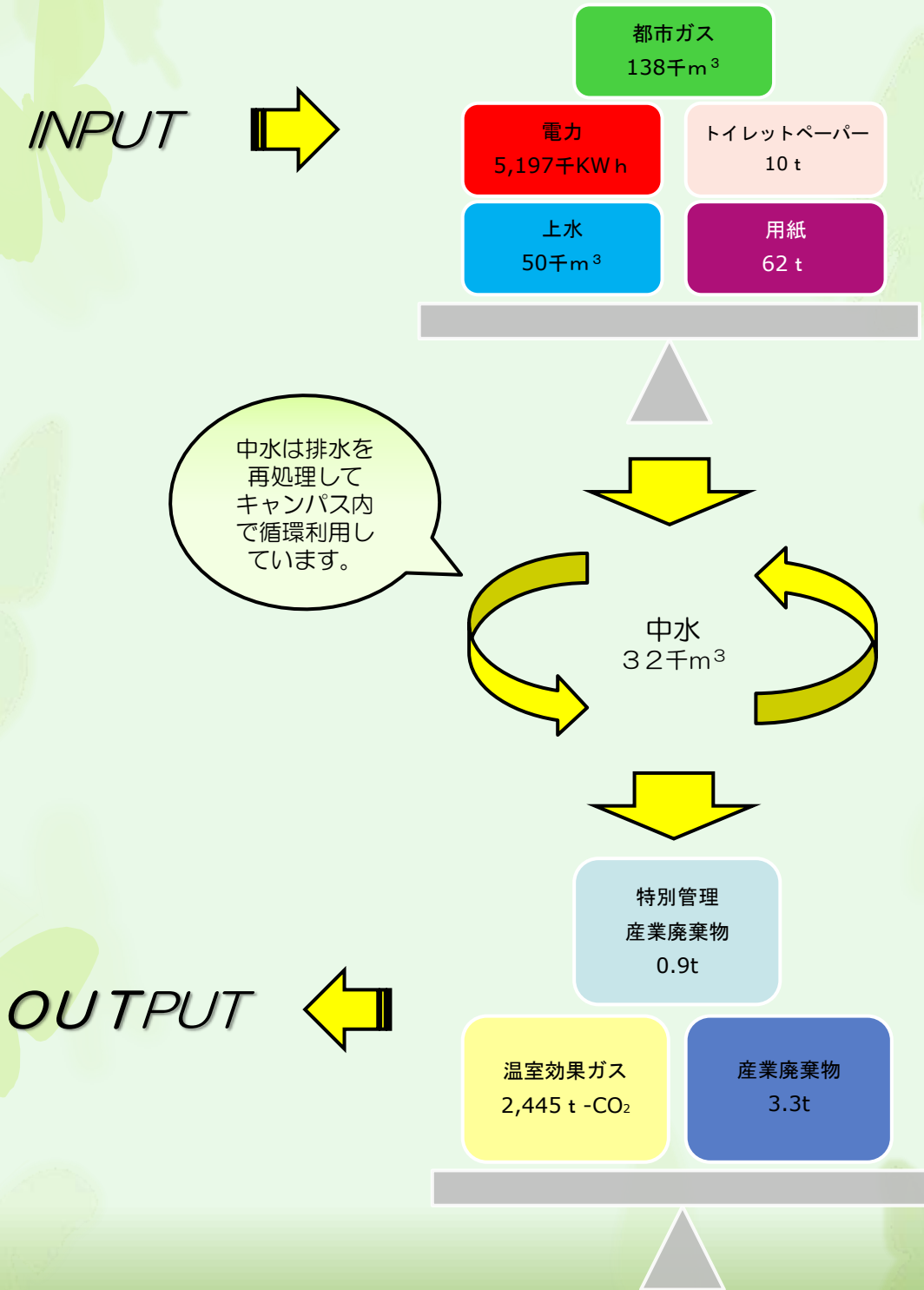
項 目	実 施 計 画
喫煙・分煙区域の指定	□ 分煙対策として、引き続き禁煙区域の明示と喫煙場所の整理を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。
啓発活動	□ 喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画
雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	□ キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。
花壇の整備	□ 計画的に整備する。
植栽の剪定	□ 期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。

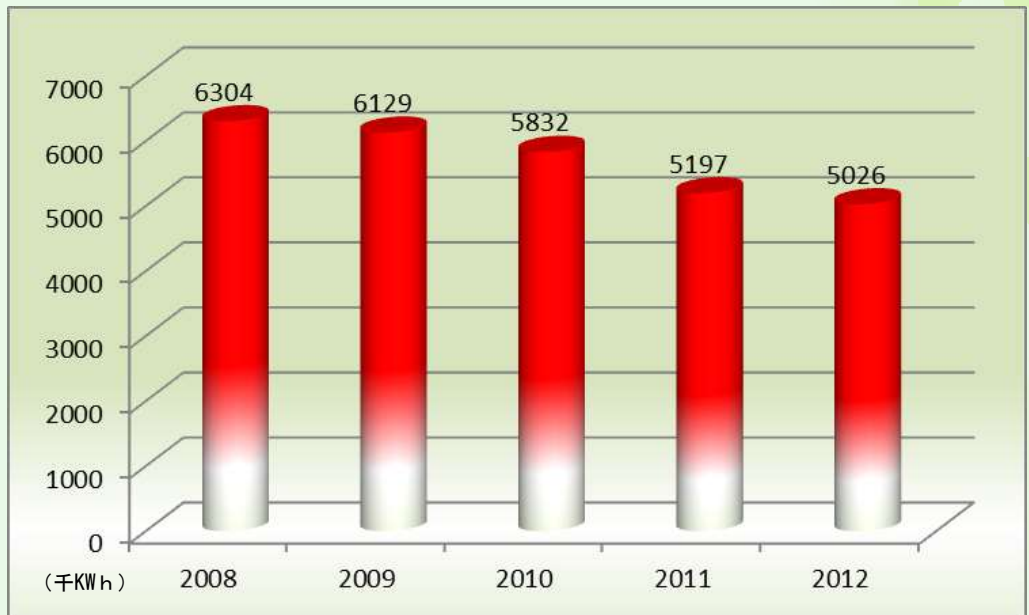
マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学の活動に伴う環境負荷の全体像で、大学の活動のために投入する資源等をINPUT、大学の活動結果排出する環境負荷をOUTPUTとして表したもので、平成23年度の大阪教育大学柏原キャンパスのマテリアルバランスは下記の通りです。



環境負荷データ

電力

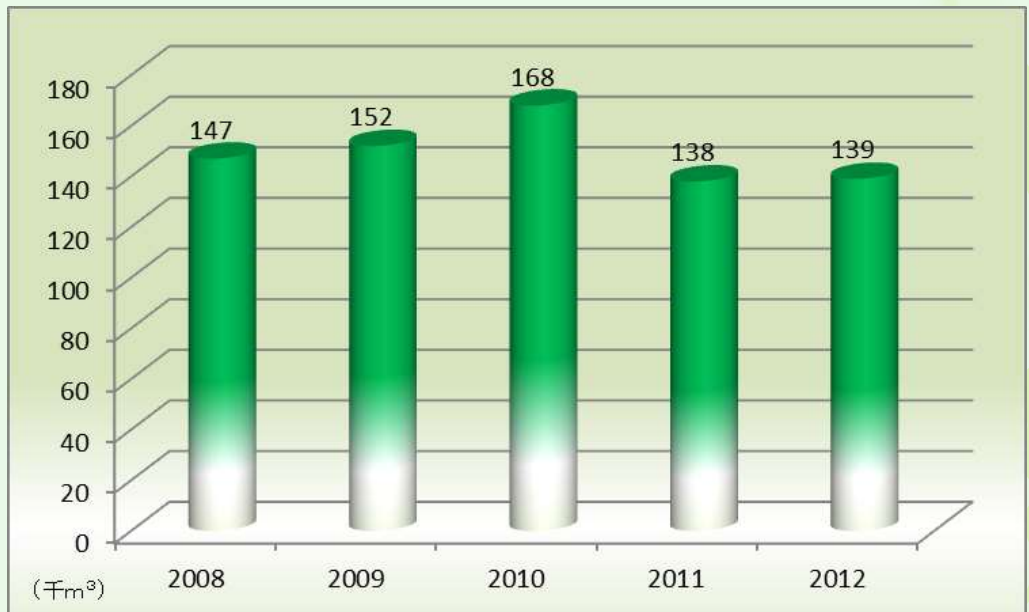


●電力使用量削減のため全学的な省エネ活動を推進しています●

2012年度の電力使用量については、照明設備の高効率化の実施を行うと共に夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動として、節電を実施したことにより、2011年度と比べ約3%の電力使用量削減となりました。

※電力の調達は環境配慮契約法に基づき調達契約を実施しています。

都市ガス

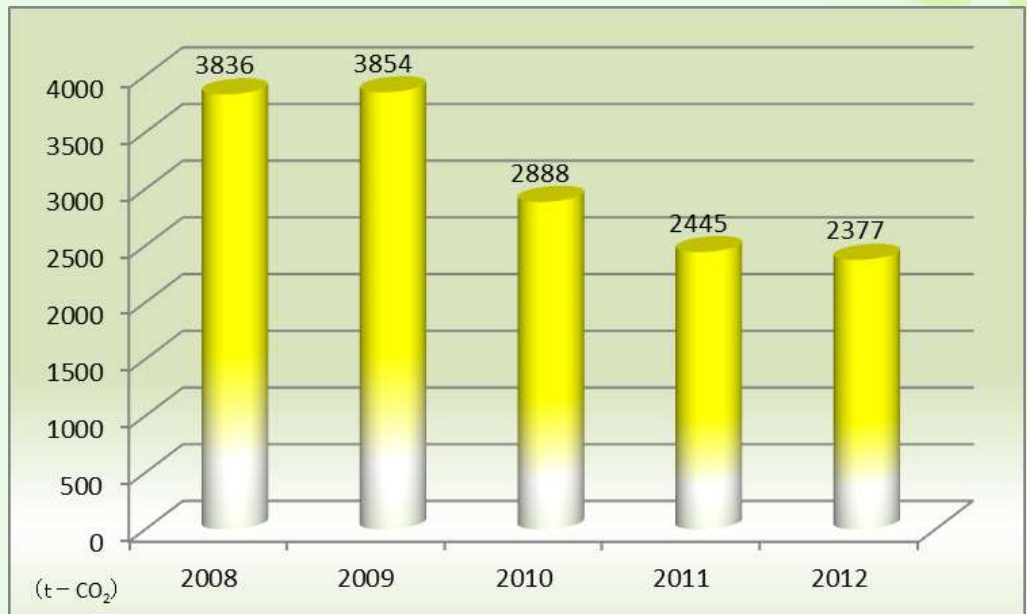


●ガス使用量削減についても全学的な省エネ活動を推進しています●

ガスヒートポンプ式空調機の設定温度の抑制と2012年度は夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動を実施しましたが、冬季の低温期間が長引いたことにより、ガス使用量の大きな削減にはいたらず、2011年度程度の使用量となりました。

環境負荷データ

温室効果ガス

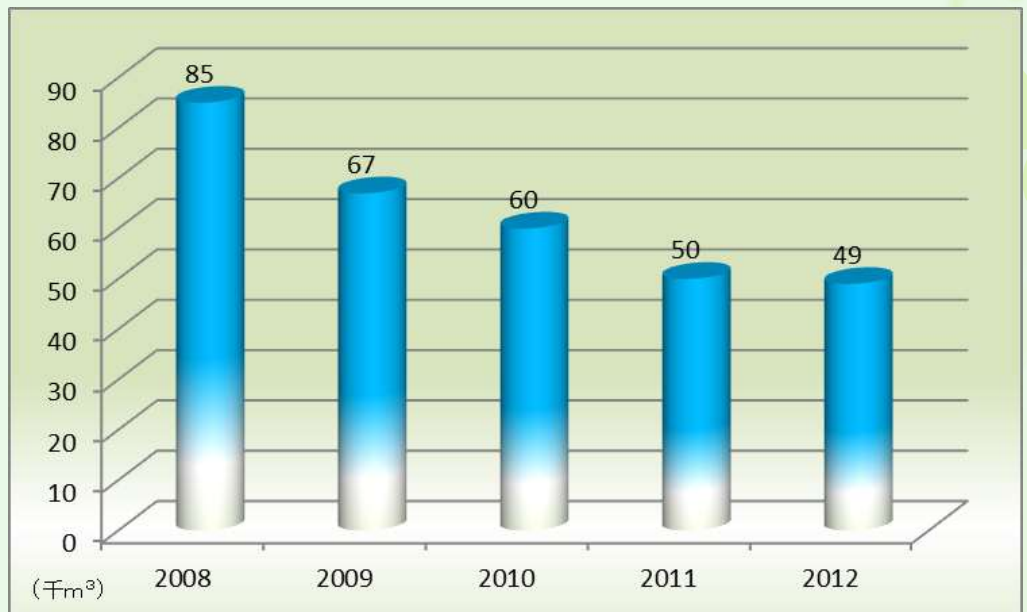


●温室効果ガス排出量削減に努めています●

2012年度の夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動等の取組みにより電力エネルギーの消費が削減されたことに伴って、2011年度と比べ約3%の温室効果ガスの排出量が削減となりました。

※電力のCO₂排出係数は「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」第3条1項口で定める数値を採用しました。

上水

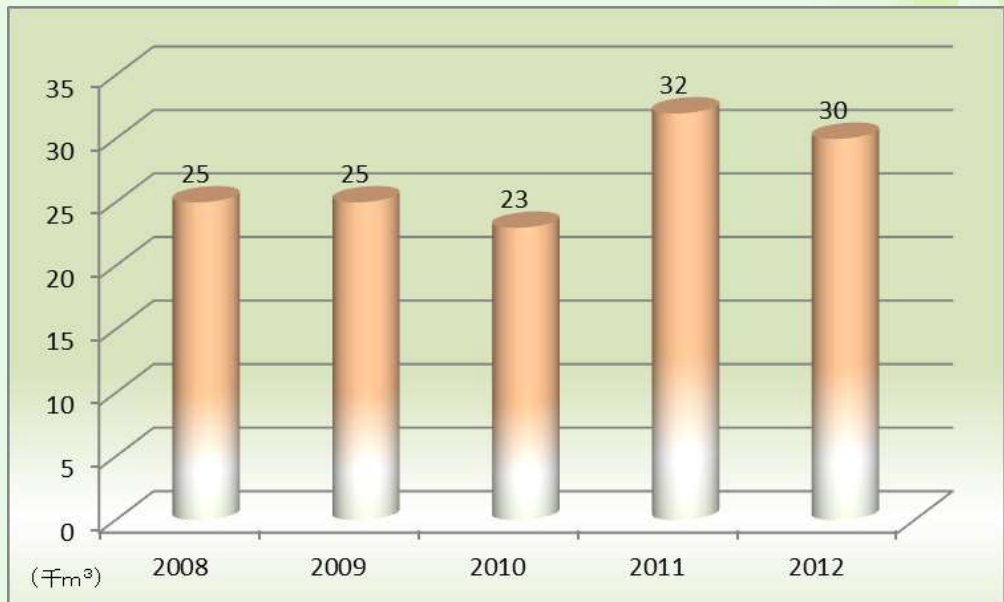


●節水対策により水の使用量削減に努めています●

自動水洗の導入やトイレの擬音装置の導入により2012年度も夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動の効果により、2011年度と比べ約2%の使用量削減となりました。

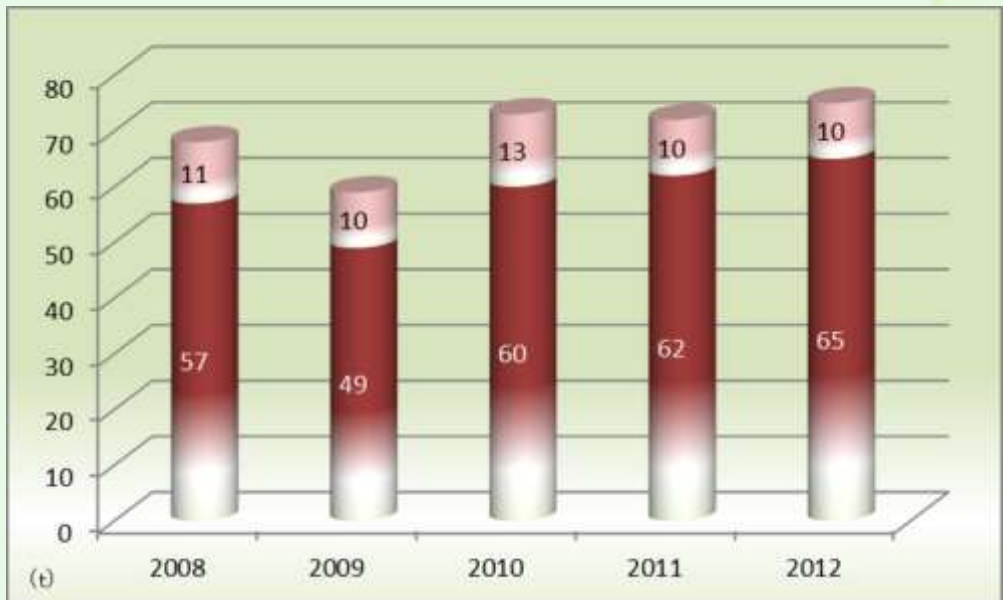
環境負荷データ

中水



●中水は排水を再生処理してキャンパス内で再循環利用しています●
 生活系で使用した排水は生活排水処理施設で処理を行い、中水として柏原キャンパス内のトイレの洗浄水や樹木などの散水として循環利用を図っています。また余剰の処理水は環境汚染のない基準以下に処理され、河川に放流を行っています。2012年度に排水処理施設の改修（膜分離活性汚泥方式の採用）を行い自然に優しい排水処理を行っています。

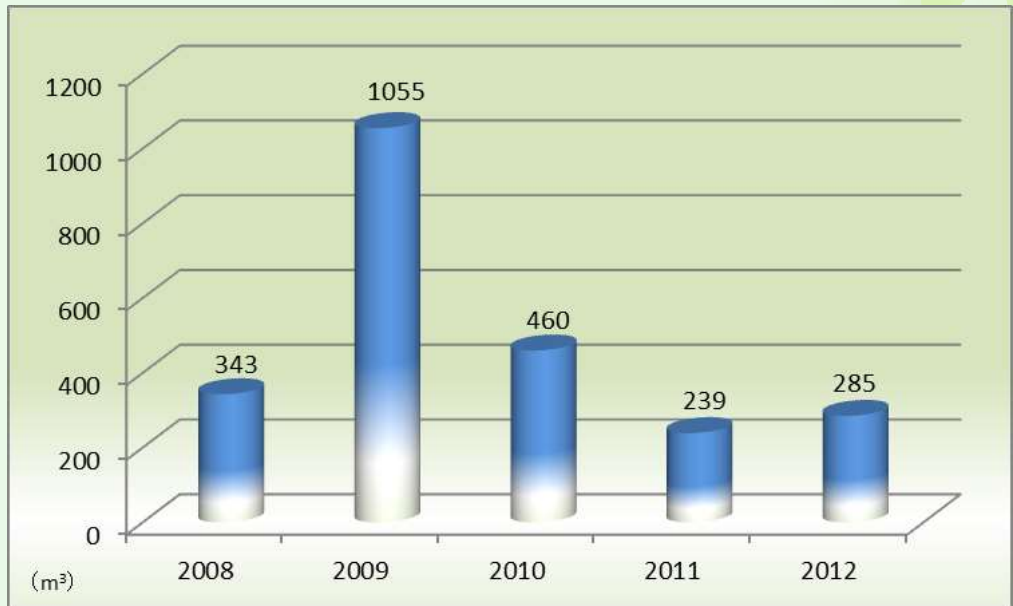
■ トイレットペーパー
 ■ コピー用紙



●コピー用紙及びトイレットペーパーの節減に努めています●
 トイレットペーパーについては、2011年度と同程度の使用量でした。また、コピー用紙については2011年度に比べ3 t増加しました、大阪教育大学学内グループウェアにより配布文書の電子化を行いペーパーレス化を図っています。また、両面コピーやコピー用紙の裏面利用などを行い、紙使用の節減に努める手法の一つとしてペーパーレス会議の促進にも努めています。

環境負荷データ

産業廃棄物



●産業廃棄物の削減に努め適切な処理を行っています●

産業廃棄物については2011年度に比べて46m³増加しました、特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物は「廃棄物処理法」に基づき適正な処理を行っています。
※産業廃棄物は主に金属くず、木くず、廃プラスチック等を破碎した体積です。

■廃棄物の分別徹底とリサイクル

1. 一般廃棄物の分別収集

要所に分別ゴミ収集ボックスを配備して、分別収集を徹底し、委託清掃業者による毎日の清掃時に委託清掃業者が取りまとめて集積場に廃棄しています。

2. 特別管理産業廃棄物

特別管理産業廃棄物に該当する廃油、廃酸、廃アルカリ等については、随時産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

また、ポリ塩化ビフェニル廃棄物（PCB廃棄物）は、PCB保管庫に保管しており、環境省「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」に基づき委託処理する予定です。

3. 産業廃棄物

酸・アルカリ等の実験廃液やそれによる汚泥、廃油、また、廃プラスチック・金属類等の産業廃棄物は鍵付きの厳重管理格納庫を設置し、集積状況を見て随時、産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

4. その他のゴミの収集

冊子や紙類等は全構成員に回収日と収集場所を周知徹底し、リサイクル業者に回収処理を委託しています。粗大ゴミは鍵付き格納庫にコーナーを設け、リサイクル可能な物と不可能な物に分別し、学内再利用する物は学内ネットで広報し、必要者の再利用に供しています。

また、不可能な物については産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

環境マネジメント活動の推進

環境保全活動の状況

キャンパスクリーンデー

柏原キャンパスでは、7月4日（水）に一斉クリーンデーを実施しました。これは、学生・教職員が共に作る『快適なキャンパス環境』を維持するため、緑化・美化活動の一環として、年に2回実施されているものです。今回は、7月2日（月）から7月13日（金）をキャンパスクリーン週間とし、特に7月4日（水）は教職員ならびに学生の参加を得て、草刈りなどを行いました。当日は梅雨の合間にもかかわらず時折、青空がのぞく天候に恵まれ、午後1時から作業を開始し、多くの参加者の協力を得てキャンパスがきれいになりました。みんなで花と緑に溢れたキャンパスにしようという整備計画（通称「キャンパス・クリーン・アンド・グリーン」）の一環です。



キャンパスクリーンの様子

ペーパーレス化の促進



操作説明会の様子

学内諸会議のペーパーレス化を促進し、事務効率化及び経費削減と環境保全としての省資源化をはかるため「ペーパーレス会議システム」を導入しました。本システムは、Apple社のiPad端末を利用し、ペーパーレス会議を実現するシステムで、教職員に利用者アカウントを配布し、ログインすることにより、各自が関係する会議に限定した資料閲覧が可能です。会議資料をサーバーで一元管理するため、PDFファイルをアップロードするだけで準備が完了するので、ペーパーレスに伴う経費削減だけでなく、作業時間も大幅に短縮されます。これに合わせ、事務担当者向けの操作説明会を6月20日（木）に実施しました。今後、学内全体での利用が定着するよう自身から積極的に活用していきたい」などの声が上がりました。既に、システムを導入した総務企画課が所掌する役員、役員協議会、事務局会議、運営機構室会議などで利用を開始しており、この説明会を機に、さらなる導入推進が期待されます。

ハイブリッド車の導入

柏原キャンパスでは公用車がハイブリッド車となりました。これにより、環境に配慮した温室効果ガスの抑制を図っています。



環境マネジメント活動の推進

環境保全活動の状況

みんなで花と緑に溢れたキャンパスにしようという整備計画として「キャンパスクリーンアンドグリーンキャンペーン」を実施

○フウセンカズラの取り組み

本学入試アドバイザーの岸本章嗣氏と、施設課職員の中山明義氏は、2月17日（日）、18日（月）の両日、東日本大震災の被災地・岩手県宮古市の仮設住宅を訪れ、被災した住民たちを「苦難去る人形」で励ましました。

「苦難去る人形」とは、フウセンカズラの種を顔にして9匹のお猿さんを作り、南天の木の上に並べたもので、転じて「苦難去る人形」となりました。昨年11月、作品を宮古市磯鶏（そけい）地区の河南仮設住宅にプレゼントしたところ、自治会長の荒川清孝さんと妻の亮子さんから返礼のものが届きました。文面には、「（人形を）作ってみたいというお年寄りがあります」と記されていました。

岸本・中山両氏は「喜んでもらえるなら材料や道具を持って現地に行こう」と、河南・荷竹（にちく）両仮設住宅を訪問しました。集会所には計30人のお年寄りが集まり、岸本氏らの指導のもと、一生懸命に、しかも笑い声が響く中、約2時間で作品ができあがりました。完成した「苦難去る人形」は各々の自宅に飾られ、復興に向かう住民らを励ましています。

なお、材料となったフウセンカズラの種は、柏原キャンパス学生会館前のスペースで、理科教育講座と音楽教育講座の学生らが昨年夏から秋にかけ栽培し、採種を手伝ったものです。岸本氏は「人形が完成したときは、大変喜んでいただきました。少しでも復興のお役に立てばと思います。わたしたちも住民たちと交流し、よい経験になりました」と話しています。



フウセンカズラ



訪問先の様子

○コスモスの取り組み

長尾彰夫学長、若井祐次事務局長らがエスカレータを上がった階段のスロープにコスモスの播種を行いました。フェンス横に約10mの畝をこしらえてコスモスの種をまき、枯れ葉などの腐葉土をかぶせました。9月には芽を出し、10月には可憐な花を咲かせる予定で、通学階段を通る学生らに秋の訪れを感じさせることになりそうです。



種まきの様子

○スイセンの取り組み

初春を彩る花として知られるスイセン（水仙）が、柏原キャンパス・エスカレーター横の斜面に咲き誇り、見頃になっています。昨年12月8日、理科教育講座の岡崎純子准教授が指導する学生らが寒い雨の中球根を植えたものです。植えた球根は白い花弁に黄色い副花冠を備えたニホンズイセン1,500株、花弁が黄色いラップスイセン150株の2種類で、甘い香りを漂わせ、通学階段を通る学生らに春を感じさせています。これからも次々と開花し、当分の間楽しめるとのことです。



開花の様子

環境マネジメント活動の推進

省エネルギー活動

○省エネルギーの夏季アクションプランがスタート

平成25年度夏季省エネルギーキャンペーンが7月1日（月）から9月30日（月）の3ヶ月期間（但し土曜、日曜、祝祭日及び行事開催日は除く）で始まり、推進委員会では7月2日（火）、長尾学長を先頭に省エネパトロールを実施しました。また、キャンペーンの横断幕を、近鉄「大阪教育大前」駅からのアクセス道路（北西進入路）に掲示しました。

本学では夏季省エネ計画を策定し附属学校等を含めて取り組むこととし、教職員だけでなく、学生に対しても教育の一環として、日常生活や教育研究等を通じて節電・省エネルギー活動を実施します。本学はこれまでも、昼休み等の消灯、クールビズの励行、エアコンの温度管理の徹底など、省エネを進めてきました。今回の節電実施目標は、これまでの経緯をふまえ、平成22年度夏季最大電力値の10%以上としました。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



省エネパトロールの様子



キャンペーンの横断幕

柏原キャンパスの大学入口にあるエスカレーター前に**ミスト**（微細な霧の噴射装置）を設置いたしました。



ミストの様子

環境マネジメント活動の推進

省エネルギー活動

平成25年度夏季省エネについて

概要

H24年度の夏季は関西電力管内の電力需給が原子力発電所の再稼働ができない等で、電力需要が逼迫することから関西電力管内では15%以上の節電要請が政府から発表され、節電・省エネ活動を全学において、実施いたしました。この夏についても昨年と同じく、電力需要が厳しくなると予測されるため、本学では夏季省エネ計画を策定し、附属学校園を含めた取組みとして、夏季の節電目標と期間において、節電・省エネ活動を実施する予定としています。

- ・ 節電目標 平成22年度夏季の最大電力より10%の節電
- ・ 期間 平成25年7月1日（月）から平成25年9月30日（月）

夏季省エネの具体的な節電・省エネ実施項目

- ・ 電気予報の実施
- ・ 省エネポスターの掲示
- ・ 省エネステッカーの貼り付け
- ・ 省エネパトロールの実施
- ・ クールビズの励行（平成25年5月1日から平成25年10月31日）
- ・ 未使用部屋の消灯 → 5%削減
- ・ 昼休み等休憩時間の消灯 → 5%削減
- ・ 自然光の活用（日中は窓側消灯） → 5%削減
- ・ 未使用部屋の空調機運転停止 → 10%削減
- ・ 温度管理の徹底（冷房28℃） → 1℃調整で10%削減
- ・ 冷房期間中、ドア・窓の開け放し防止 → 10%削減
- ・ ブラインドの有効活用 → 10%削減
- ・ 空調機フィルターの定期清掃 → 5%削減
- ・ 外気冷房（夏季の早朝、夜間および中間期）※網戸の活用
- ・ PC等省電力設定 → 70%～90%削減
- ・ 不要な周辺機器をパソコンから取り外す
- ・ PC等の長時間（約1時間30分以上）使用しない場合OFF
- ・ 冷蔵庫の設定を「弱」モード → 「強」から「中」で11%削減
- ・ テレビ等のリモコン電源ではなく、本体の電源を切る → 2%削減
- ・ 日中で明るい場所は照明を消す → 5%削減
- ・ 長時間使用しない機器はコンセントからプラグを抜く → 2%削減
- ・ 長時間（2時間以上）使用しない電気ポットは、プラグを抜く → 25%削減
- ・ 節水に努める

（上記削減数値は、主に経済産業省資料より出典）

環境マネジメント活動の推進

省エネルギーおよび環境負荷軽減

排水処理施設の改修

1. 改修概要

平成2年に設置された排水処理施設は、設置後20年以上が経過し老朽化が目立ち故障した場合の部品供給も困難な状況で、濾過能力も劣化していました。このことから瀬戸内海環境保全特別措置法に適した河川の水質を守るため、全窒素除去能力を改善させるための改修を実施しました。また、膜分離活性汚泥方式を採用したことにより、環境に配慮し自然に優しい排水処理を実現しています。

2. 主な改修内容（排水処理施設の機能改善として老朽機器の更新）

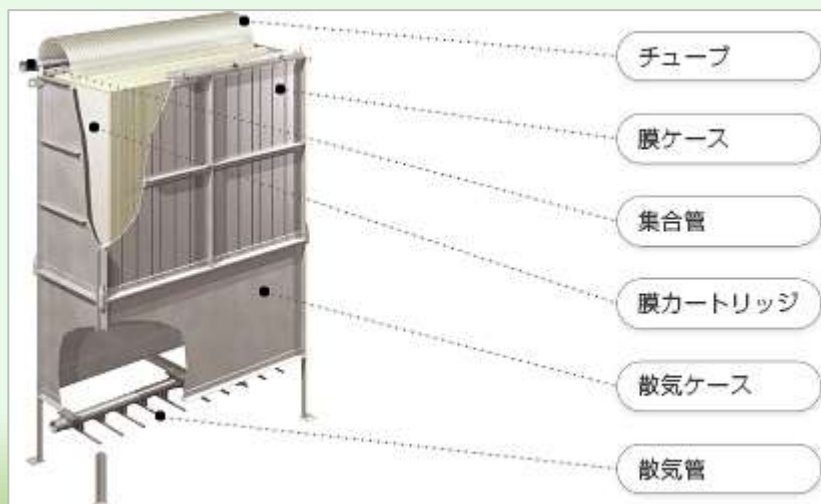
- 生活排水処理：接触ばっき式十三次処理 → 膜分離活性汚泥方式(環境負荷軽減)
：制御盤の更新及びポンプ類等(省エネ型)の更新、緊急貯留槽の整備
- 実験排水処理：制御盤の更新及び老朽機器の更新
- 排水処理施設の屋上防水改修及び建具の改修
- 老朽化した照明設備(省エネ型)の更新



生活排水処理内部



膜ユニット



膜ユニットの構造

環境マネジメント活動の推進

エネルギー削減の取り組み状況

省エネルギーおよび環境負荷軽減

○A棟建具改修

- ・ 既設サッシの内側に新たにサッシを取り付け断熱効果を高めエネルギー削減を図る。
- ・ 整備場所 : A棟
- ・ 年間削減CO2量 : 約17.4t
- ・ 年間冷暖房削減額 : 約100万円



改修後の状況

○建物LED化改修

- ・ 事務局の既設照明器具をLED型照明器具に取替を行い、エネルギー削減を図る。
- ・ 整備場所 : 事務局棟 (N棟、B棟、C棟) 取替
- ・ 年間削減電力量 : 約53,000kwh
- ・ 年間削減CO2量 : 約15.8t
- ・ 年間電気料金削減額 : 約82万円



改修後の状況
(教務課)



改修後の状況
(財務課)

○外灯LED化改修

- ・ 既設外灯の器具をLED型器具に取替を行い、エネルギーの削減を図る。
- ・ 整備場所 : 構内道路等の街路灯及び庭園等の取替
- ・ 年間削減電力量 : 約220,000kwh
- ・ 年間削減CO2量 : 約68.5t
- ・ 年間電気料金削減額 : 約340万円



改修後の状況
(街路灯)



改修後の状況
(庭園灯)

環境マネジメント活動の推進 エネルギー削減の取り組み状況

省エネルギーおよび環境負荷軽減

(講義室空調改善の試行としてB4-102室において下記の対策工事を実施しました)

○対策1：サーキュレーターの設置



設置前



設置後



サーキュレーター (見本)

- ・講義室の天上面にサーキュレーターの設置を行い空調の滞留した温風等を、サーキュレーターを運転することにより、滞留した空気を拡散し、空調効率を高める効果がある。
- ・工事費：約17万円

○対策2：真空ガラスのサッシ取替



真空ガラスの取付



取付状況



真空ガラスサッシ (見本)

- ・既設サッシを真空ガラスのサッシに取替を行い部屋の遮熱・断熱効果を高め空調負荷軽減効果がある。
- ・工事費：約60万円

○対策3：床面に断熱材の吹付け



施工前



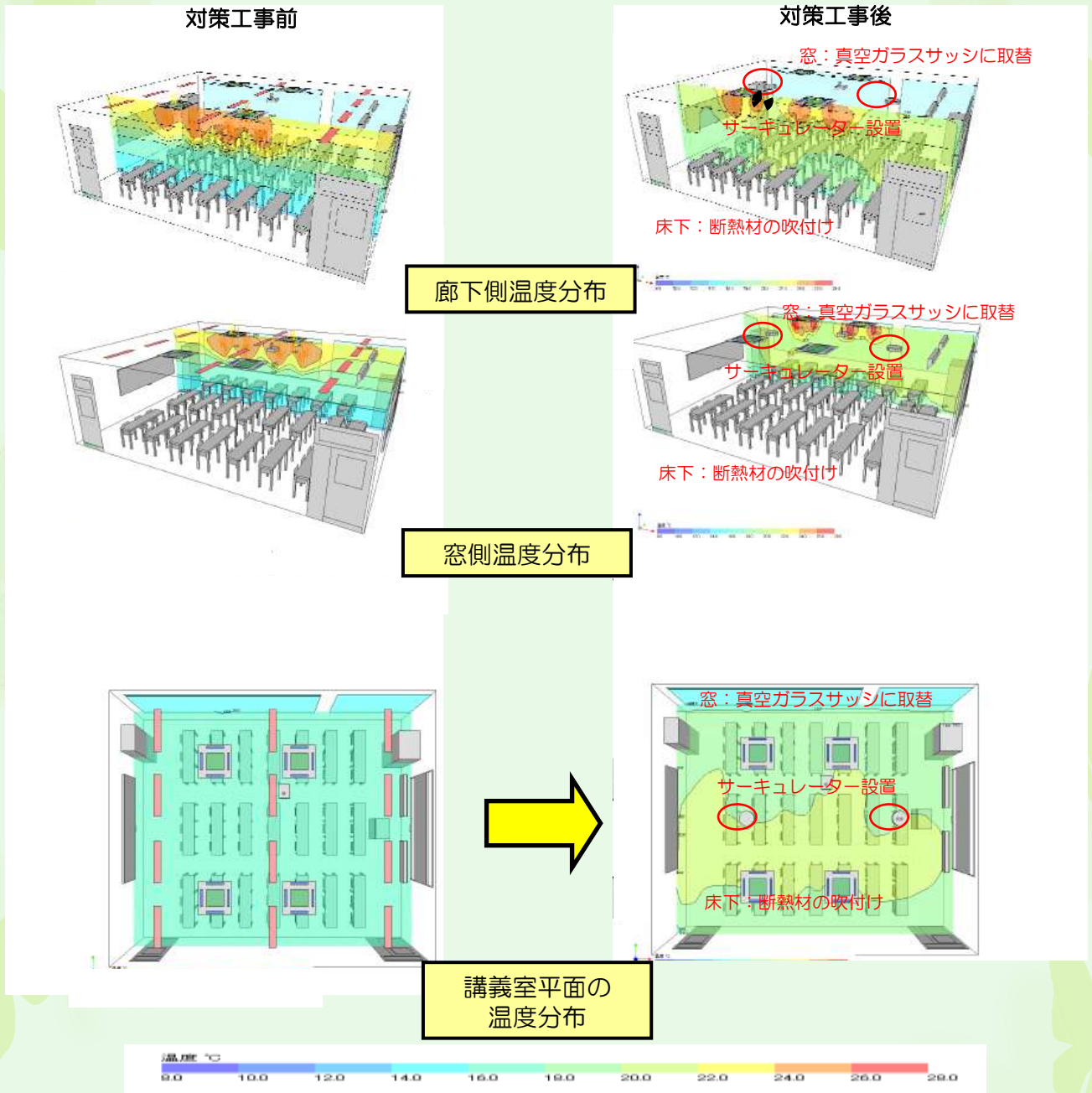
施工後

- ・床下面に断熱材の吹付けることにより部屋の断熱を図り、床下への熱の損出を防ぐ効果がある。
- ・発泡ウレタン：厚さ30ミリ吹付け。
- ・工事費：約90万円

環境マネジメント活動の推進

エネルギー削減の取り組み状況

○省エネルギーおよび環境負荷軽減として対策工事を実施したその検証として、下記の通り室温解析を実施いたしました。



室温解析結果（暖房時による解析）

各対策工事を実施した結果、サーキュレーターによる温風の拡散と真空ガラスサッシ及び床断熱の相互効果により、廊下側及び窓側と足下付近の温度について改善がみられる結果となりました。冷房による解析は実施していませんが、同様の効果が期待できることとなりました。

環境マネジメント活動の推進

安全・安心への取り組み

新入生らを対象とした防犯・交通安全教室



防犯訓練の状況

新入生らを対象とした防犯・交通安全教室を4月24日、柏原キャンパスで開催しました。柏原警察署の主催で「春の地域安全運動」に合わせて大阪府内で多発する女性を対象とする性犯罪等被害の防止。二輪車通学者の交通マナー向上をはかるのがねらい。平成21年度から毎年開かれており、約150人の学生が参加しました。当日は、性犯罪などの被害防止や違法ドラッグ乱用防止についてのDVD上映や交通安全について署員からの講義があり、「自分の安全、自分の体は自分で守るという心構えが大切です」と強調された。

大規模地震に備えた防火・防災訓練

大規模地震による災害を想定した防災（避難）訓練を、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部の指導の下、11月14日（水）に柏原キャンパスで実施し、教職員と学生ら約1,000人が参加しました。

当日は、午前11時55分に震度6強の地震が発生したという想定で、柏原キャンパス自衛消防隊を立ち上げ、地震発生後の被害状況を情報収集し、授業中の学生約900人を避難誘導、負傷者を救護・搬送する等の訓練を行いました。

一連の訓練を終えた後、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部の小池一彰消防司令から「概ね想定通りの訓練ができていました。しかし、阪神・淡路大震災の教訓から、いざとなったら救急隊員の到着は期待できず、初期消火や負傷者救出等の処置は、大学関係者自らが行わなければなりません。そういったことを念頭に置き、さらに改善を加え、今後もこうした訓練を継続していくことが大事です」との講評がありました。続いて長尾学長が「訓練を行ってみて、まだまだ不十分なところが多々あることが確認されました。いざという時に適切な行動がとれるよう防災意識を啓発し、TPOに応じた訓練を充実させていきたい」と挨拶しました。

本学では、今後も参加対象を拡げ、今回得られた課題を改善し、訓練を重ねていく計画です。



自衛消防隊による情報収集の状況



避難風景

環境マネジメント活動の推進

地域社会への取り組み

グリーンアドベンチャー（常設コース）

森の中の樹木を探索して廻る柏原キャンパスにはグリーンアドベンチャー常設コースが平成17年に、社団法人青少年交友協会から寄付を受け設置されています。

グリーンアドベンチャーとは、自然を具体的に発見してもらい、自然と生活文化の関わりを知ってもらうことを目的として、社団法人青少年交友協会が主宰する事業のひとつです。構内を周り樹形、葉、幹から樹名を考える体験ができます。

具体的には、次のようにご利用下さい。上りエスカレータ最終地点から少し道なりに進むと、右手にスタート案内板が見えてきます。この案内板に描かれたコースに従い、進んで下さい。コース上に50本の樹木が指定されていて、各樹木の前に、QAパネルが設置されています。QAパネルにはそのままの状態では樹木名は表示されませんが、その樹木のヒント、用途などを知ることができます。上部をめくることにより植物名等を知ることができます。



案内板



コーススタートの目印



樹木のQAパネル



コース終点の目印

環境マネジメント活動の推進 地域社会への取り組み

「柏原国際フェスティバル」を開催

大阪教育大学と柏原市のさらなる国際化を推進するため、本学留学生と市民との交流を図り、異文化理解、国際理解に寄与することを目的として「第7回かしわら国際交流フェスティバルーおいなーれ！世界へー」を5月19日（土）に開催しました。五月祭と同時開催となった柏原キャンパスでは、本学留学生、学生、一般市民を合わせ550人が参加し、大勢の人で盛り上がりました。

今年度は、「各国料理を提供する世界の食卓・フードゾーン」、「歌・踊りを披露するステージ」、「各国の文化紹介をするふれあいテーブル」の3つのイベントを同時進行で実施しました。



フェスティバルの参加の皆さん



モンゴルのゲル（移動式住居）体験



台湾茶文化体験コーナーの様子



歌・踊りを披露するステージ

環境マネジメント活動の推進 地域社会への取り組み

「第31回柏原市市民健康マラソン大会」を開催

第31回柏原市市民健康マラソン大会が3月10日（日）、本学柏原キャンパス内で開催されました。大会のメイン会場を、昨年度までの柏原市役所前の大和川河川敷公園から本学の陸上競技場に移して実施されました。コースは、キャンパス内の外周道路、北西進入路、北東進入路等を利用して、10km、5km、3kmの3コースを設定し、距離・年齢等を組み合わせて12種目に分け、競技が繰り広げられました。

当日はあいにくの曇り空でしたが、総勢1,068人のランナーと380人の応援者で、開会式の会場となった陸上競技場がにぎわいました。長尾彰夫学長が挨拶で「アップダウンの激しいコースとなっていますが、無理をせず完走してください。また、本学の美しいキャンパスを堪能していただければ幸いです」と呼びかけ、10km及び5kmにエントリーしたランナーが一斉にスタートしたさまは壮観でした。初めてのコースで円滑に誘導できず、コースを間違えるランナーがいたため、表彰は行われませんでした。閉会式では大阪マラソン参加の抽選会が行われ、10km完走者から男女各1人が選ばれました。



学長の挨拶



マラソンの様子

「幼稚園児と本学学生がいも掘りで交流」

本学柏原キャンパスの教材園で、11月9日（金）、柏原市立玉手幼稚園（柏原市円明町、文珠裕子園長）の園児44人と本学「食農教育の実践」受講生26人が一緒にいも掘りをしました。手やシャベルで畝（うね）を掘り起こすと、土の中から大小様々な赤いサツマイモが次々と姿を現し、「あったー」と、子どもたちの歓声があがりました。大きいもので長さ40センチ程のいもを、みんなで抱きかかえ「でかいなあ」「先生、見てえー」と喜んでいました。今夏に、4列の畝に苗約100本を植えたところ、天候に恵まれ豊作でした。収穫作業のあと、子どもたちと学生は、掘り出したいもを前に記念写真に収まりました。「食農教育の実践」の授業を受け持つ野田文字子教授（副学長）は「食と農を通じて食生活のあり方を考えるとともに、学校での栽培活動に必要な知識と技術を学ぶことを授業のねらいとしていますが、教職をめざす学生が幼稚園児と収穫作業を通して交流するこの取り組みは、実践力を培う絶好の機会となります」と話していました。



いも掘り後の記念撮影

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

大阪教育大生協の環境保護に関わる取り組み 「リサイクルのとりくみ」

生協では、食堂で販売するテイクアウト弁当の容器としてリサイクル可能な「ホッかる」を使用し、リサイクルに取り組んでいます。学生委員会を中心に回収BOXの地図を掲示したり、回収BOXにリサイクルを呼び掛けるポスターを掲示するなどの啓発に取り組みました。2012年度容器回収率は、年間平均で前年度とほぼ横ばいの21%でした。



回収ボックス及びリサイクル取組ポスター



ホッかる容器



リサイクル要領

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

大阪教育大生協の省エネルギーに関わる取り組み

生協では、2011年と同様、夏と冬の2回、大学をあげての省エネキャンペーンに生協としても積極的に協力してまいりました。具体的には、店内及び食堂ホールの照明の一部消灯、コンビニでのショーケース照明の消灯、自販機コンプレッサーの一部停止、事務機器の主電源OFF、組合員の皆様へのご協力をお願いいたします。

大阪教育大学・夏の省エネキャンペーン
生協は省エネのため以下のとくみを実施しています!

- * TERRA・第2食堂・カフェ・レストランFORET
ホール照明の開店前消灯、昼間一部消灯
- * 購買のスポットライト、TERRAの間接照明の終日消灯
- * 購買・PETIT SHOP・ホッかるショップ 冷蔵ショーケース照明の終日消灯
- * 自動販売機の照明の終日消灯
- * 自動販売機コンプレッサーの部分停止
- * 空調(暖房)の設定温度管理
- * 空調(暖房)の営業終了時停止
- * 出入口の開放厳禁(混雑時以外)

夏にひきつづき、大学をあげての省エネ推進、電力量10%削減の目標達成のため、生協も様々な節電に取り組んでいます。組合員の皆さんも食堂や購買のドアを閉める等、ご協力をお願いいたします。

UNIV 大阪教育大学生協同組合

ポスター

生協の省エネキャンペーン
＜2012年7月～9月実施中！＞

全学をあげての省エネ推進、電力量15%削減の目標達成のため、生協も様々な節電に取り組んでいます。組合員の皆さんも食堂や購買のドアを閉める等、ご協力をお願いいたします。

【主な節電実施項目】

- TERRA・第2食堂・カフェ・レストランホール照明の開店前消灯、昼間一部消灯
- 購買のスポットライト、TERRAの間接照明の終日消灯
- 購買・ホッかるショップの冷蔵ショーケース照明の終日消灯
- 自動販売機の照明の終日消灯
- 自動販売機コンプレッサーの部分停止
- 大学会館廊下照明の一部消灯
- エアコンの設定温度・風速管理
- 出入口の開放厳禁(混雑時以外)

UNIV 大阪教育大学生協同組合

ポスター



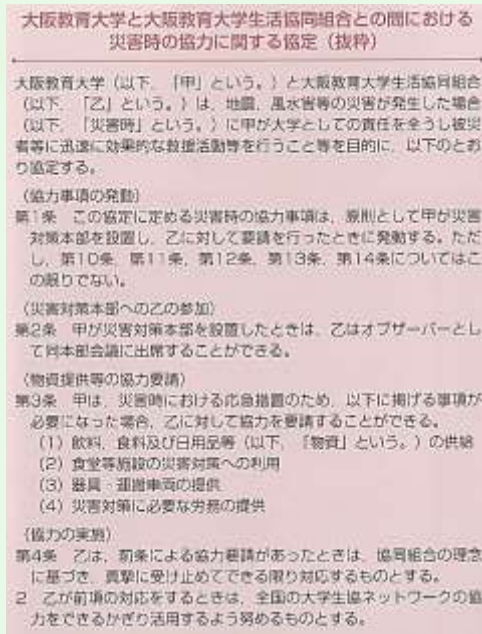
省エネ・節電の実施状況

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

大阪教育大生協の省エネルギーに関わる取り組み 「災害救援ベンダーの設置」

生協では、2012年9月4日付けで、大阪教育大学と大阪教育大生協とで「災害時における協力協定」を締結しました。災害時に、生協の店舗在庫（飲料・食品など）を大学の備蓄の一部として使用するなどの協力を行います。また、大学からの要請で「災害救援ベンダー」（自動販売機で災害時に停電しても供給できるもの）を体育館と大学会館前に2台設置しています。



協力協定（抜粋）



災害救援ベンダー



体育館の設置状況



大学会館設置の状況

柏原キャンパス航空写真

柏原キャンパスの航空写真について

大阪教育大学柏原キャンパスは平成3年に大阪市内から柏原市に移転し約22年が経過しました。上の写真は1996年に撮影した航空写真で建物等の整備が完了した状況です。また、下の写真は2013年3月に撮影した写真です。周辺の山々は自然公園内のため、緑が保たれた状態で、長年に渡り環境が確保されています。



1996年撮影



2013年撮影

柏原キャンパスマップ配置図



1 共通講義棟
H2 RC3F
講義室、視聴覚教室、情報処理実習室、
IT教室などがあります。



2 教養学科棟
H3 RC4F
12,894㎡
講義室、実習室、研究室などがあり、
教養学科の講義、研究が行われています。



3 教員養成課程棟
H3 RC4F
19,010㎡
講義室、実習室、研究室などがあり、
教員養成課程の講義、研究が行われています。
入試課は1階1階にあります。



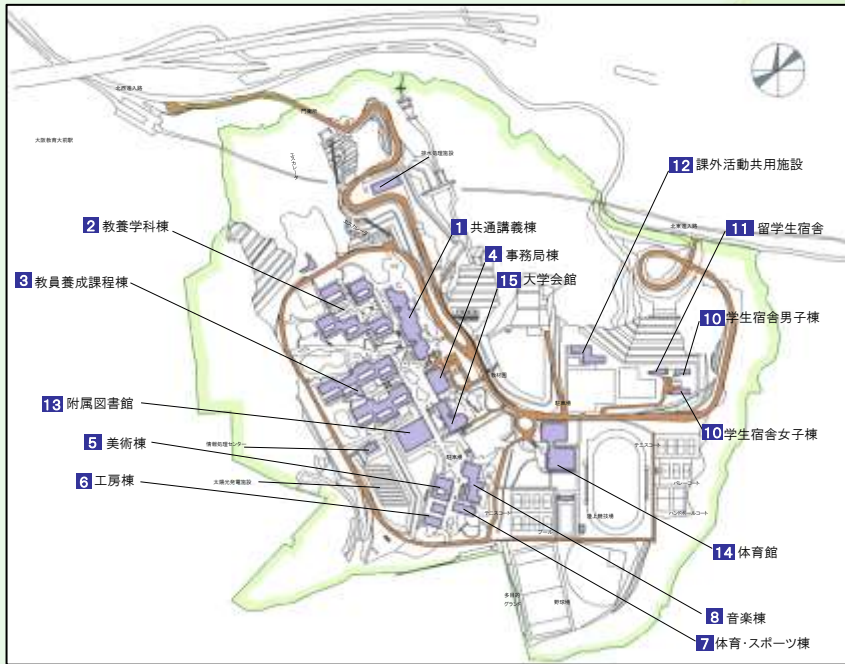
4 事務局棟
H6 RC4F
4,369㎡
学務部のほか、管理部、学術部などがあります。



5 美術棟
H3 RC3F
2,659㎡
絵画室、デザイン室、書道室、講義室、
研究室などがあります。



6 工房棟
H3 RC1F 797㎡
彫刻室、金工室、立体室、木工室、窯工室、
研究室などがあります。



7 体育・スポーツ棟
H3 RC4F
1,745㎡
実験実習室、講義室、セミナー室、
研究室などがあります。



10 学生宿舎
H5 RC5F 2,560㎡
男子学生宿舎(18寮室定員90名)1棟、
女子学生宿舎(18寮室定員90名)1棟があります。



11 留学生宿舎
H6 RC4F 1,004㎡
40室(寮室定員男性18人、女性22人)あり、
留学生に居住の場を提供しています。



12 課外活動共用施設
H6 RC2F
1,989㎡
体育系共用室、文化系共用室、合宿室などがあり、
課外活動の拠点になっています。



8 音楽棟
H3 RC4F 4,084㎡
リハーサルホール、実習室、練習室、講義室、
研究室などがあります。



13 附属図書館
H3 RC3-1F 7,224㎡



14 体育館
H4 RC1F 1,770㎡



15 大学会館
H3 RC4F 3,677㎡

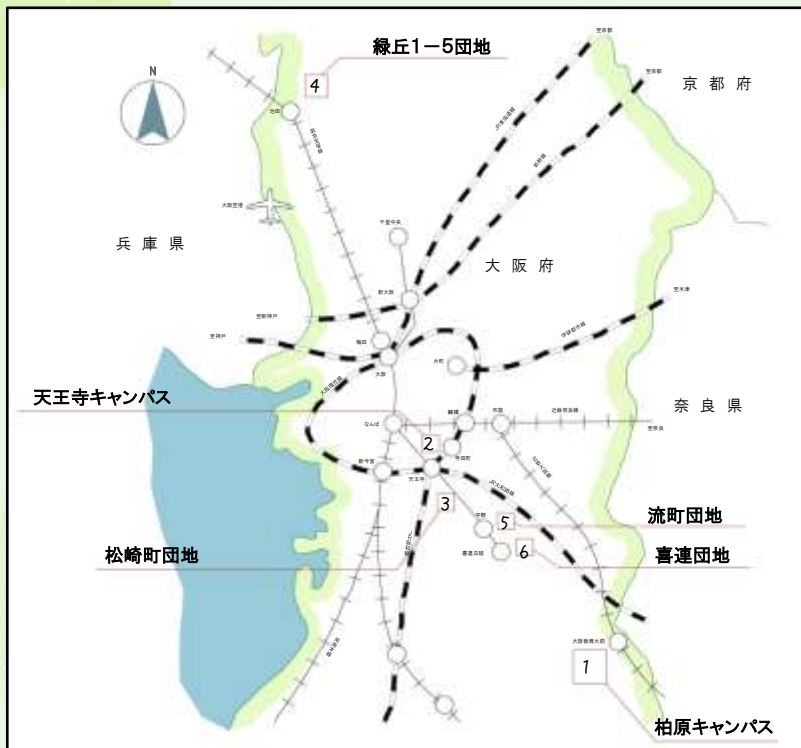
団地の所在地

柏原地区

- 1 柏原キャンパス
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

天王寺地区

- 2 天王寺キャンパス
大阪市天王寺区南河堀町4-88
附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎
大阪市天王寺区南河堀町4-88
- 3 松崎町団地
附属天王寺小学校 大阪市阿倍野区松崎町1-2-45



池田地区

- 4 緑丘1-5団地
附属池田小学校 池田市緑丘1-5-2
附属池田中学校 池田市緑丘1-5-1
附属高等学校池田校舎 池田市緑丘1-5-1
学校危機メンタルサポートセンター

平野地区

- 5 流町団地
附属幼稚園 大阪市平野区流町2-1-79
附属平野小学校 大阪市平野区流町1-6-41
附属平野中学校 大阪市平野区流町2-1-24
附属高等学校平野校舎
大阪市平野区流町2-1-24
- 6 喜連団地
附属特別支援学校 大阪市平野区喜連4-8-71

キャンパスの特徴

大阪教育大学には柏原キャンパスの他、11の附属学校園が設置されている。大阪市内の天王寺地区及び平野地区、大阪府北部の池田地区に分かれて置かれ、いずれも大学との連携のもと、教育研究・教育実践・教育実習の場として重要な役割を果たすとともに、それぞれ地区ごとに連絡進学をはじめさまざまな相互連携をとり、下記のような特徴を持っている。

- 柏原キャンパス
平成元年より天王寺、平野、池田より統合移転し、大学の本部を置くキャンパスである。
- 天王寺地区
教育学部（二部）、大学院（夜間）と附属天王寺小学校、附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎を有するキャンパスで「基礎・基本の確かな育成」「中高一貫教育の長い歴史」を目標にしている。
- 池田地区
附属池田小学校、附属池田中学校・附属高等学校池田校舎を有するキャンパスで「生きる力の育成・国際教育の基盤作り」「国際教育・国際理解教育と異文化交流」を目標にしている。
- 平野地区
附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校・附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校を有するキャンパスで「相互連携した教育・研究」「5校園構想への取組みと異校種交流学習」を目標にしている。



編集後記

本環境報告書は大阪教育大学の省エネキャンペーン「クーラーよりもクールビズ」など節電計画の積極的な活動を始め、環境配慮活動についてまとめたものです。さらなる本書の充実と本学の環境への取組についてご指導、ご支援をお願いいたします。

お問い合わせ先

国立大学法人 大阪教育大学

管理部施設課企画係

電話：072-978-3333

FAX：072-978-3345

mail：sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

URL：http://osaka-kyoiku.ac.jp/